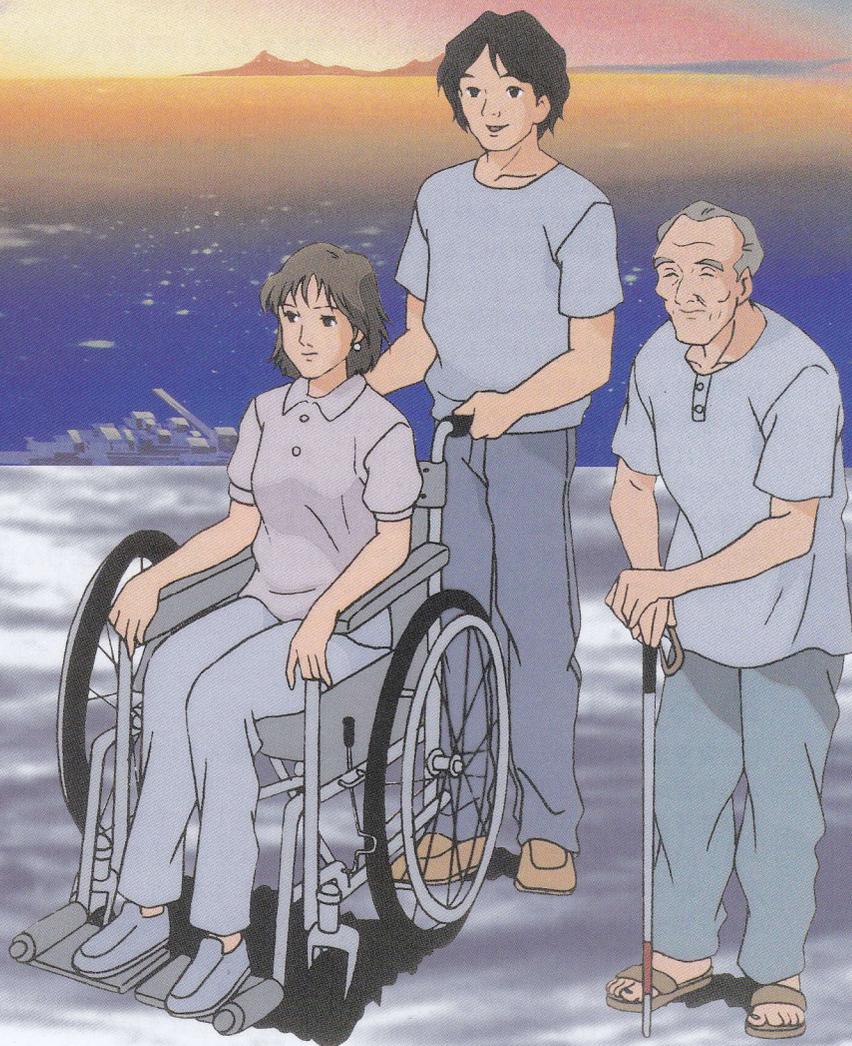


# いのちの輝く灯



## こころの「もやい」を大切にしよう

北九州市人権啓発映画制作委員長  
井上 重人

北九州市が同和対策事業を行うに当たって大切にしてきたものは、「もやいの心」でした。また、昨年10月に示された「人権教育のための国連10年北九州市行動計画」の基本理念を支える考えのひとつも、こころの「もやい」を大切にするまちづくりです。

近ごろは、地域での人間同士のつながりが希薄になりがちで、人と人がふれ合う中で、お互いが成長するという大切なことを忘れてしまうようなところが見られます。

「相手の立場に立って考える」、これが人権・同和問題を解決する基本です。つまり、自分の問題としてとらえるということです。しかし、現実には相手の立場に立って考えているのでしょうか。相手の痛みが本当に分かっているのでしょうか。分かっているつもりで終わっているのではないのでしょうか。「つもり」でなく、本当に人の気持ちが、人の痛みが分かるためには、分かるための努力が必要です。その努力をする過程で、今まで見えなかったものが見えてくるのです。

この映画の主人公、奈津子の次の言葉が強く心に残ります。「私の周りにも、私を照らしてくれる人がいる。人はみんな照らし合って生きているんですね。そう、みんな…私、身体がこんなになって死にたくなかったこともあったけど、もう逃げません。前を向いて生きていきます。そしてきっと、自分のいのちの灯を見つけます。」

そうです。私たち一人ひとりが持っている豊かなこころの灯をともし、こころの「もやい」を大切にしながら強く生き抜いていきたいものです。

●価格(税別)：16ミリ版¥265,000/ビデオ版¥80,000 ※16ミリ、ビデオの字幕入りもごさいます。(C#6078)

上映時間 48分

■企画：北九州市／北九州市教育委員会／北九州市同和問題啓発推進協議会

■製作：東映株式会社 ■アニメーション製作：ジェイ・シー・エフ

■声の出演：大滝 秀治／篠原 恵美 ほか

■プロデューサー：古知屋 正裕 ■脚本：山上 梨香 ■監督：勝間田 具治 ■音楽：渡辺 博也

# ポイント

障害者問題

共生社会

同和問題

同胞の精神

女性問題

自己受容・他者受容  
(心のバリアフリー化)

## 企画意図

あなたにとって「人権」って何ですか？あなたは、自分を大切にするように周りの人も大切にしていますか？

時代は今、「人権の世紀」とも言われる21世紀を迎えようとしています。

しかし、現実はどうでしょう？

私たちの身の回りには、人を軽侮したり無視するなどの差別事象が起っています。

何故、差別は起こるのか、人は何故、差別するのか？

この疑問に答える作品はできないかと、今回、世界人権宣言第1条を映画制作のテーマに設定しました。

そして、「人間は尊厳と権利について平等である」「人間は互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」という条文の意味を、一人ひとりが自分の問題としてとらえていただこうと考えました。

この映画では、人生の途中で障害を持つ身となった奈津子とその恋人・雅人(母親が同和地区出身)、そして盲目の老人・昭吉との関わりや家族を含めた周りの人々との関係を通して、「人権」とは何かを問いかけ、何故、人が人の人権を無視し差別するのか、また人が生きて行くうえで大切な「同胞の精神」とは何なのかを見る人に投げかけています。

この作品を通して、人権問題とは、差別される側の問題ではなく、差別する側の問題であるということ認識していただき、差別する心理の背景とは何なのか、同胞の精神をもって行動するとはどういうことなのかを自分自身の問題として考えていただきたいと思います。

## あらすじ

古賀奈津子は25才のツアーコンダクター。赤沼雅人という恋人がいたが、結婚には奈津子の父・浩正が反対していた。雅人の母親が同和地区出身だという理由で…。

奈津子が添乗する唐津バスツアーに、水江昭吉という目の不自由な老人が参加した。「目が見えないのに何が楽しいんだろう」というツアー客の陰口があったが、奈津子は少しでも旅を楽しんで貰おうと昭吉に親切に接する。自分史を書こうと思った昭吉は、若い日の記憶を辿るためにツアーに参加したのだった。帰途、バスの中で空缶につまづきケガをしてしまう昭吉。添乗員として責任を感じた奈津子は、入院中の昭吉を見舞う。

昭吉を見舞った後、雅人とのデートに急ぐ途中、奈津子は交通事故に遭う。下半身不随の重傷に、浩正は「奈津子の人生は終わったようなものだ」と嘆く。雅人は浩正から事実を告げられ、奈津子と別れるように促されて動揺する。もう一生歩けないと知って自暴自棄になる奈津子を、母・紀子はかばうのだった。

雅人は悩んだ末、奈津子の足になろうと決意して病院を訪れるが奈津子から拒まれる。昭吉も見舞いに訪れたが、奈津子の深い悲しみを察して会わずに立ち去るのだった。

雅人の献身に奈津子の心は少しずつ開き、リハビリを始めるようになる。退院した奈津子が車椅子で動きやすいように部屋を改造する浩正と紀子。

奈津子のもとに、藍島に住む昭吉から手紙が届いた。奈津子を励まそうと、自分史の一部を書き送ってくれたのだ。そこには、戦争で失明した昭吉が、絶望の中で見つけた『いのちの灯』のことが綴られていた。

手紙に心動かされた奈津子は、島へ渡ろうと決意する。そこへ雅人からの電話が入った。奈津子を心から愛する雅人は、改めてプロポーズするのだった。

奈津子は雅人に感謝しながら自分自身の心確かめるために、弟・元樹の協力で藍島へ向かう。『いのちの灯』は奈津子の心にともるのであろうか…。



「俺たちこそが古い考えを正し、差別をなくしていかなければならないんだ。」



「男でも女でも、自分の可能性を最大限に生かして生きればいいんじゃない。」



「今の自分を受け入れることだよ。自分を愛せなくて他の誰が愛せる。」

関東営業所 東京都中央区京橋2-17-1 〒104-0031 ☎03-3535-3631  
関西営業所 大阪市北区曽根崎新地1-13-22 〒530-0002 ☎06-6345-9026  
広島出張所 広島市中区国泰寺町1-5-31 〒730-0042 ☎082-249-3930  
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766  
中部営業所 名古屋市中区錦3-24-3 〒460-0003 ☎052-971-0923  
九州営業所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101  
北海道営業所 札幌市中央区南一条西7-4 〒060-0061 ☎011-231-1439

●お買い上げは……

## 北辰映像株式会社

埼玉県さいたま市緑区三室2190-2 〒336-0911  
電話048-810-5277 Fax048-876-2955